

よぬだ ところどころ



第四十八号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

小山湊の「モッタボ」という場所

これは、「小山湊」にかかわる地名で、「河川湊にかかわる特定の狭い場所」を指すものと推定される。

地名を考えるにはまず「発音」からアプローチすることが大切である。「モツ(ッ)」と「タボ」と分けて考えると、前者は動詞で、動作をあらわすのとれる。後者は、動詞が修飾する名詞ととれる。漢字では「擡」と当てられ、動詞としての意味は「頭をもたげる」と思われ、「望」は「様子や向かう方向」と考えられる。

この地名が、「小山湊のどこにあったか」が問題であるが、多分河川沿いの水辺で小さい平坦地を推定することが妥当である。写真と地図 小山公園の太鼓橋付近



飛騨川は夏季と冬季の水位差が激しく、洪水時には小船は流出する危険がある。笠松あたりでも岐阜工業高校のボートが伊勢湾まで流出したことがあり、太田あたりでも洪水時には、河岸に小舟を引っ張り上げて避難させている。当然小山でも平水時には水辺に係留していたが、洪水時には小高い場所に避難させたことであろう。

このように考えれば、「モッタボ」という内容は「小舟の船首を持ち上げ」「少し高い平坦地」に向かって「その移動様子」を示すと解釈できる。この場所は平水時には「荷物を一時上げる場所で」「ここから段丘の上へさらに持ち上げる小道」が接続していると思われる。太田の船頭町(波の上)も、木曽川河畔にすぐに出られるような横道があったので、小山も同じような状態であったと考えられる。

奏の関連用語から

「モッタ」と呼ばれるものは「舟の固定に使われるイカリ」を指すといわれる。岸壁から「バラバラの荷物を陸に揚げる機械」とされ、このような作業をする場所を「モッタバ」と称することがある。

